

令和3年2月16日

那須塩原市長 渡辺 美知太郎 様

那須塩原市上下水道事業審議会
会長 太田 正

第2期那須塩原市下水道中期ビジョン(案)の策定について(答申)

令和2年10月6日付け那塩管第402号で諮問された「第2期那須塩原市下水道中期ビジョン(案)の策定」について、下記に示す各委員による真摯な審議に基づき、別冊のとおり策定しましたので答申します。

記

下水道は、汚れた水をきれいにして川にかえすという役割をはじめ、雨水排水による浸水防除など、様々な役割を担っています。生活環境や水環境の保全のために、今後も持続可能で安定的な下水道事業運営が求められています。

このような中、那須塩原市下水道事業を取り巻く環境は年々厳しくなり、様々な課題を抱えています。とくに下水道施設の多くは昭和後期に建設されたため、今後は老朽化に伴う維持管理費の増加が見込まれます。その一方で、人口減少や節水意識の高まりにより下水道使用料の大幅な増収は見込めない状況です。そのため、限られた財源の中で効率的かつ効果的な汚水処理を行うためには、適正な施設の維持管理のもと、市の将来像と地域ごとの人口分布を見据えた下水道区域の見直しを図る必要があります。

また、地域の特性に応じた処理方法を選択することによって、生活排水処理人口普及率の向上を推進するとともに、生活環境の更なる改善や水環境の保全に努める必要があります。さらに、災害に強い下水道設備や避難所での衛生確保、下水道資源の有効利用による循環型社会への貢献など、近年の社会情勢に即した新たな役割も期待されています。

これらを踏まえ、「快適」、「強靱」及び「持続」の3つの観点から下水道事業の抱える課題に対する対応策と目指すべき方向性を示すとともに、「めぐる水 未来へつなぐ 快適な暮らし」を基本理念として定め、将来を見据えた事業計画を立案し持続可能で安定的な下水道事業運営を目指すべく、第2期那須塩原市下水道中期ビジョン(案)を策定しました。

本ビジョンに掲げる将来像に対する実現方策を展開するにあたっては、コロナ禍における下水道事業への影響を踏まえ、社会情勢の変化や技術革新にも柔軟に対応していく必要があります。ついては、中長期的な財政見通しと財源の確保、効率的かつ効果的な方策の選択実行によって、快適で安全な生活環境の確保を図るとともに、市の貴重な財産である清らかな水環境が次世代へ受け継がれていくことを強く要望いたします。